

# 地域をリードする和牛繁殖肥育一貫経営事例

真庭郡湯原町 佐山牧場

## 事例の内容

### 1 山間地域にあって、大規模な繁殖肥育一貫経営を確立

湯原町の農業は水稻を中心に、トマト、山の芋、そば等の栽培が盛んで、肉用牛については、古くから優良な和牛子牛の産地として知られています。現在、繁殖経営は28戸で、131頭の繁殖雌牛が飼養されています。

佐山牧場は湯原町種(たね)地区の山間部(標高約600m)に位置しており、現在繁殖牛43頭、肥育牛8頭を飼養しています。

### 2 放牧を組み合わせ、規模拡大に取り組む

経営主の佐山さんは、昭和32年に就農しました。昭和40年から和牛繁殖部門を開始し、その後増頭に取り組み、昭和45年に自宅近くの山林を草地造成して、繁殖牛12頭の放牧を開始しました。昭和48年には、子牛価格の変動に対応できる安定的な肉用牛経営の確立を目的として、肥育部門を導入し、繁殖牛20頭、肥育牛20頭の繁殖肥育一貫経営としました。以降も、自給飼料生産を確保しながら、優秀雌子牛の保留を中心に規模拡大を図ってきました(表1)。



写真1 シバ型草地への放牧状況

表1 経営の推移

年	内 容
S.32	就農
S.40	肉用牛開始(繁殖牛4頭)
S.45	4ha草地造成 繁殖牛12頭放牧開始
S.48	一貫経営開始 繁殖牛20頭 肥育牛20頭
S.58	公社営事業で畑地造成、飼料作機械導入 繁殖牛35頭 肥育牛20頭 (以降順次増頭)
H.13	繁殖牛43頭 育成牛3頭 子牛26頭 肥育牛8頭

### 3 シバ型草地への放牧で強健な牛をつくる

8haのシバ型草地に、4月下旬から11月末まで繁殖牛と育成牛(離乳後)を放牧しています。草地造成当時は、オーチャードグラス等の混播草地でしたが、面積に対し、やや多めの放牧頭数を長期間継続していくうちに、徐々に優占草種がノシバに変わっていきました。現在では、ノシバがしっかり定着し、放牧草地のほとんどがシバ型草地となりました。

シバ型草地への放牧効果としては、管理の省力化はもちろんのこと、足腰が強く、胃袋の強健な食い込みの良い牛になり、耐用年数の延長につながっています(写真1)。

### 4 制限哺乳技術を導入

舎飼い期の繁殖牛への飼料給与は、オーチャードあるいはトウモロコシサイレージを5～8kg/日、イタリアン乾草5kg/日、ふすまを1.5kg/日です。また、分娩1ヶ月前から離乳時まで繁殖牛用配合飼料1～2kg/日を、牛の状態を見ながら増し飼いでいます。

一昨年、試験的に分娩後15日目から2週間朝夕2回の制限哺乳とし、その後自然哺乳に戻したところ、分娩後初回授精までの日数が62日となり、従来の平均日数98日に比較して大幅に短縮しました。子牛の発育については初期に若干の発育遅延があるものの、出荷時までには回復したことから、現在では更に制限哺乳開始時を早め、分娩1週間後からとしています。

### 5 販売子牛の飼養管理

販売予定の子牛は出荷まで舎飼いして徹底管理しています。出荷成績は雌が315,233円(市場平均比106.1%)、去勢が421,575円(同112.6%)と優秀な成績をあげています。

### 6 地域のリーダーとして活躍

佐山さんは、岡山県農業士、真庭農企業者クラブ理事、湯原町畜産振興協議会副会長、まにわ和牛研究会会長の要職にあり、多方面で農畜産業の振興に尽力されています。

## 技術解説

### 1 繁殖部門を重視した繁殖肥育一貫経営

佐山牧場における肥育部門の位置づけは、子牛の価格変動対策である。子牛の相場が低下し、十分な評価がされない場合に、子牛を連れ帰り肥育している。繁殖部門の子牛販売単価低下分を、肥育部門の素牛導入コスト低減で相殺する考え方である。最近では、肥育部門の肉質向上にも力を入れており、新しい飼料給与パターンを経営内で実証試験中である。

### 2 シバ型草地の管理

佐山牧場のシバ型草地への放牧密度は繁殖牛1頭当たり20～25aと、一般に推奨されている値よりも高い。しかし、下牧時には肋張りのあるしっかりとしたコンディションになっている(盛夏期を除き、補助飼料の給与はしていない)。また、草地が過放牧によって痛んでいる様子もみられない。これは、放牧期前の堆肥施用による草地の増収分が、やや高めの放牧密度とうまく釣り合っているためと考えている。

## 参考にする場合の留意点

### 1 シバ型草地放牧技術

シバ型草地の優れた点は、オーチャード等の牧草と異なり、放牧期間を通じて乾物中のTDN含量の変動が少ないことである。しかし、TDN含量自体は50%程度と低く、これは繁殖牛の維持期レベルに相当する。従って、牛の栄養要求量が高まる妊娠末期～離乳までは、シバ型草地だけでは栄養が不足することになり、繁殖への悪影響も考えられる。

佐山牧場では、分娩前1ヶ月には繁殖牛を下牧・舎飼いし、要求量に合った飼料給与メニューを与えている。